

視察報告

大山町の行政施策の参考となる事例を学ぶため、県外で視察を行いましたので、内容を要約してご報告します。

総務

常任委員会

視察日 10月18日から10月20日



【伊方町役場・伊方発電所】

伊方町は、四国電力との原子力安全協定をもとに、住民にすべての情報を提供している。このことが少なくとも住民の安心、住民からの信頼の第一歩になっていると感じた。

大山町は島根原子力発電所から約40km東に位置し、南に大山をひかえ、気象条件では放射能汚染のホットスポットの発生も懸念される。

町民の安全・安心のために早急に鳥取県や西部市町村と連携をとり、中国電力と原子力安全協定の締結に向けて努力すべきである。



【まんのう町役場・まんのう町商工会】

まんのう町のデマンド乗合タクシーは、乗客の利便性を考え、ドアtoドア（玄関から目的地）を実施している。

大山町では乗降者位置を集落の集会所などに限定しているが、利便性と効率性のいずれも検討が必要。運営費とのかね合いでは疑問が残った。

大山町は、路線バスや巡回バスを見直し、デマンド方式に変更するが、運行開始の平成24年4月までに住民周知利便性、費用対効果の精査など、万全な体制を期する必要がある。

【淡路市役所・あわじメガソーラー】

淡路市役所は兵庫県の事業を活用しメガソーラーを設置したが、見学者の説明員として一人雇用しただけで、雇用創出にはいたっていない。

淡路島に比べて、大山町のある山陰地方はくもり空も多く、淡路市のように日照時間も長くない。

仮に、導入するなら風力発電など、他の自然エネルギー発電との費用対効果を慎重に精査すべきである。

